
冷蔵庫

ヒノキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷蔵庫

【Nコード】

N6897G

【作者名】

ヒノキ

【あらすじ】

冷蔵庫を開けると冷蔵庫の中には知らない男が入っていた!!お前は一体だれだ!!

「お前、こんなところで何してる？」

ジョギングから帰ってきて水を飲もうと冷蔵庫の扉をあけると、
冷蔵庫の中には知らない男が入っていた。

体をおりたたみ中の棚や食品を縫うようにしてその男はうまく
冷蔵庫におさまっていた。

「誰なんだ」と私が問うと男はバツの悪そうに「へへへ」と片
方の口のはしを痙攣させた。

「泥棒か？」

「泥棒ではないな」

「じゃあ冷蔵庫泥棒だろ？」

「冷蔵庫泥棒でもない」

「まさか、変態なのか？」

「まあ、近いといえば近いかな」

私は目をみはった。男の腕をつかんで乱暴に冷蔵庫から引きず

りだしてやろうとした。

「ま、まってくれ」

「でてけ、変態め！」

「まてって。私は科学者なんだ」

私は動きをやめた。科学者？ 腕を離してやって男の顔に説明をもとめた。

コホンとせきばらいをし襟をなおすなどたたずまいを整えてから男は言った。「これは研究および実験の一環だ」

「人の家の冷蔵庫の中に勝手に入りこむのがか？」

「話は最後までちゃんと聞け」

にぎりこぶしを口に添えて男はもう一度コホンとした。

「そうだな、きみは『バック・トゥ・ザ・フューチャー』なるアメリカ映画をご存知かね？」

私は話がうさんくさくなる懸念をいだきながらも一応うなづいた。「青年と科学者が車のタイムマシンでどうこうするアレだろ？」

「そう！」と男はなぜかうれしそうにニコニコした。それから無造作に手近にあった板チョコレートを手にとり銀色のつつみをビリビリ破ってパキリとかじった。「マーティ・マクフライとその友人のドクことエメット・ブラウン博士がデロリアンにのってタイム

トラベルするアレだ」

「私の板チョコレートを勝手に食べないでくれよ」

「これは映画製作の初期段階の話で、ファンの間では結構知れわたっているんだが……」

その映画とアンタがウチの冷蔵庫に入っていたことには何か関係があるのか。私がそう指摘しようとしたところで、男が声をいっそうはり上げた。

「実は、初期の案では主人公たちがのりこむタイムマシンは車ではなくて、冷蔵庫だったんだ」

「はい？」

「だから、はじめは『冷蔵庫型タイムマシン』という設定だったわけなんだ」

「冷蔵庫ねえ。ふうん」

その映画にはそんな裏話もあったのか。私は拍子ぬけに似た関心というようなふしぎな感覚になった。それから男を見やると、彼は得意げな表情をしていた。

冷蔵庫……。思わず私は声にもらしていた。「まさか……？」

「フッフ」男は顔をふせぎみにし笑い、その場が王様の椅子であるかのように卵のパックに手をのせた。「私は映画の裏話を研究の着想にした。そして……」だしぬけに男はバツと身をおこし私に

人差し指をつきたてた。「この冷蔵庫、つまりタイムマシンを発明したわけなのだよ！」

私は男から、いや冷蔵庫から身をひいて言葉を失った。

この冷蔵庫がタイムマシンだと？　ふざけちゃいかん。私は男をにらんだ。

「発明も何も、この冷蔵庫は五年も昔から私の所有物だ。変態発言も大概にしろ」

「まったく、私の高尚な発明にまでも変態よばわりか」

「それなら証拠を見せてみろ」

「いいだろう」と男は冷蔵庫の扉をボタンとしめた。

その直後のことだった。

突然床がガタガタと揺れはじめ、扉の隙間からまばゆい光が細い線のようになってもれてきた。

何事だと困惑していると、冷蔵庫内部から雷でも直撃したかのような轟音。衝撃で部屋全体が大きくきしみ、私はしりもちをついてしまった。

音と光がおさまると耳から手をどけ顔を上げて冷蔵庫へ目をやった。

冷蔵庫は床と冷蔵庫の底の部分との間からドライアイスのよう

な白い煙を立ちこめさせていた。

おずおずと近づいて私は冷蔵庫の扉に手をかけた。ひくと中にも充滿していたらしく、あの白い煙がぶわっと溢れだしてきた。

煙を手でかき消して中をさがしたがさっきの男の姿はどこにもなく消えていた。

食べかけの板チョコレートが中には落ちていた。

15)

(2009. 2.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6897g/>

冷蔵庫

2010年10月9日04時03分発行